

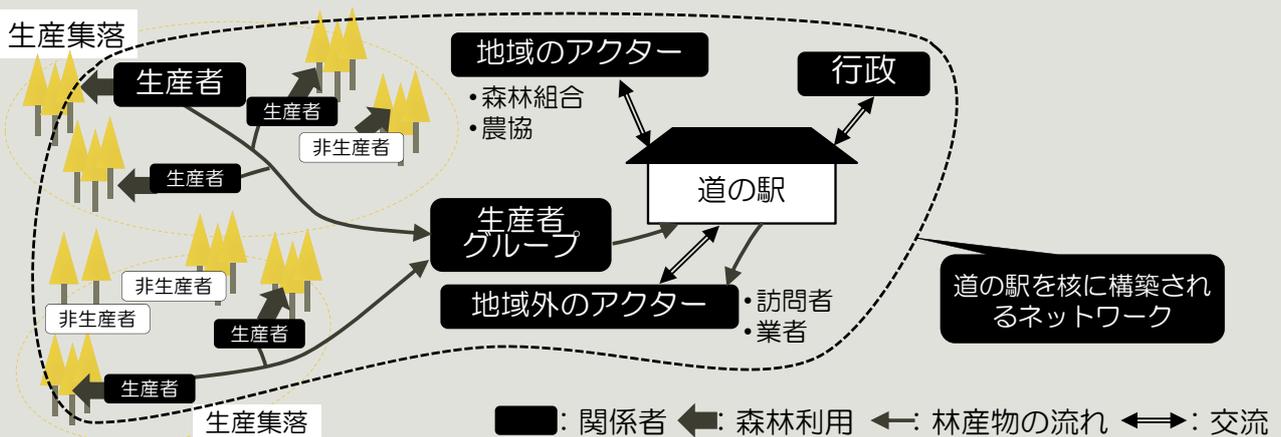
研究の背景



森林とはかかわりのない生活をおくる山村住民が多数。
 森林への関心↓， 森林の管理・経営意欲↓

➡ 森林に関心を持ってもらう必要がある。
 地域の林産物販売を拡大することが関心向上につながるの
 ではないか。
 →全国の「道の駅」に着目した

「道の駅」が果たしている役割



➡「道の駅」の林産物販売は、地域の林産物流通だけでなく、林産物を含む森林資源の情報とそれらに対するニーズの情報を交換する地域内外のネットワークを構築しているのではないか

このネットワークの構築は、山村部の林産物生産や地域住民の森林利用・管理にどのような影響を与えたのかだろうか？

目的

- ① 「道の駅」の林産物販売・需要創出機能が、山村部の林産物生産にどのように繋がっているのか
- ② 「道の駅」の林産物販売・需要創出機能が地域住民の森林利用・管理に及ぼす影響を明らかにすること。

課題①
(2020年度)

「道の駅」の林産物取り扱い状況と林産物の生産・供給体制の概況把握

課題②
(2020～21年度)

「道の駅」の林産物ネットワークの解明

課題③
(2020～21年度)

「道の駅」の林産物販売・需要創出機能が地域の森林利用・管理に与えた影響の評価

3

方法① アンケート調査

目的: 林産物販売状況と地元とのつながりの把握

調査対象 全国の道の駅(1,180駅)

- ① 「道の駅」と出荷者との関係(出荷者が出荷するための仕組み)を把握

想定される仕組み

- A 「道の駅」自らが設置した出荷者組織に登録し、その組織を通して出荷
- B 既存の生産者組織に登録し、その組織を通して出荷
- C 個人が直接「道の駅」に登録・出荷

- ② 仕組みごとの「道の駅」の特徴を分析

- ・ 組織構成(設置者種別, 管理・運営者種別)
- ・ 林産物の取り扱い状況や集荷方法
- ・ 林産物を用いた特産品の開発状況
- ・ 林産物販売に関する行政や既存の組織との連携状況

4

方法②「道の駅」関係者と地域住民への聞き取り調査

目的:「道の駅」ネットワークと地域住民と森林とのかかわりに与えた影響の解明

①の仕組みごとに事例調査する「道の駅」を選定(1事例/1類型)

調査対象	それぞれの「道の駅」の A) 関係組織 ・設置者(市町村) ・運営者(第三セクター等) ・林産物の生産・供給組織(生産者組合等) ・連携組織(森林組合等)の関係組織 B) 地域住民
調査方法	A) 聞き取り調査 B) 聞き取り調査 & アンケート調査

